ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

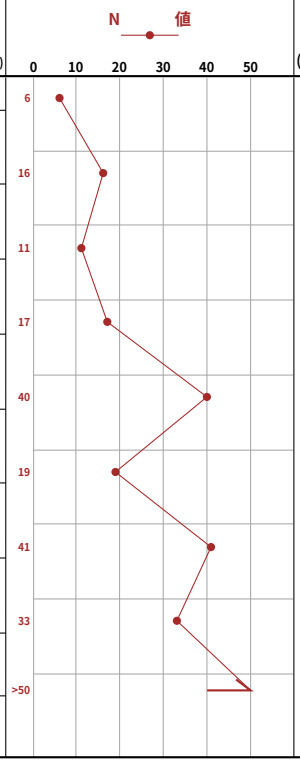
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2(斜面下部)	調査位置				北　緯	37 ° 03 ' 40.5400 "
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所　保全部			調査期間	2009-11-26 ～ 2009-12-01	東　経	139 ° 55 ' 21.0900 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	587.62 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 48.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	8.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	587.17	0.45	0.45		礫混じり砂質シルト (MS-G)	暗褐		中位	表土 径φ5～30mmの礫混入 含水比下～中位　粘性下位		
1 2					シルト混じり砂礫 (GS-M)	暗茶～暗褐	中ぐらい		崖錐堆積物 径φ5～30mmの角礫主体 マトリックス(礫間充填物)は細粒土～粗砂 1.70mまで細粒土・砂分混入多い 希に径φ40～50mmの粗礫混入 2.90m付近コア長100mm程度の粗石混入 孔壁はやや崩れやすい		
3	584.47	2.70	3.15		砂礫 (GS)	暗褐	中ぐらい		洪積礫質土 径φ5～40mmの角礫主体 マトリックスは細粒土～粗砂で砂分多い 局部的に細粒土・砂分やや優位な部位あり 3.15～3.90m間、細粒土分・砂分混入非常に多い 4.50～5.00m間、コア長30～80mm程度の粗礫・粗石密に混入 5.00～5.45m間、細粒土分・砂分混入多い 5.50～8.30mまで礫分多い 孔壁は比較的自立する		
4 5 6 7											
8	579.62	4.85	8.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N 値
0.15	2	2	2	6／30	6
0.45					
1.15	7	4	5	16／30	16
1.45					
2.15	3	3	5	11／30	11
2.45					
3.15	5	6	6	17／30	17
3.45					
4.15	9	11	20	40／30	40
4.45					
5.15	7	6	6	19／30	19
5.45					
6.15	19	10	12	41／30	41
6.45					
7.15	10	11	12	33／30	33
7.45					
8.15	18	32／5		50／15	>50
8.30					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/27
						11/28
						11/30